

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成18年10月19日(2006.10.19)

【公開番号】特開2005-102321(P2005-102321A)

【公開日】平成17年4月14日(2005.4.14)

【年通号数】公開・登録公報2005-015

【出願番号】特願2004-357578(P2004-357578)

【国際特許分類】

H 04 B 1/04 (2006.01)

【F I】

H 04 B 1/04 H

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月30日(2006.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

Lチャネル信号、Rチャネル信号及びパイロット信号からステレオコンポジット信号に変換する手段を備え、周波数変調手段で搬送波が前記ステレオコンポジット信号により周波数変調された変調波を送信するFMステレオ送信機において、

固定の発振周波数の水晶発振器を設け、該水晶発振器から38kHzの信号を生成する手段を設け、38kHzの信号をマルチプレクサの副搬送波として用い、かつ、前記発振周波数から前記パイロット信号を生成し、一方、前記周波数変調手段では前記発振周波数を基準周波数とするPLL回路を用いて前記搬送波の周波数が制御されることを特徴とするFMステレオ送信機。

【請求項2】

前記Lチャネル信号と前記Rチャネル信号は、自動車に搭載される音響機器からの音声信号であることを特徴とする請求項1に記載のFMステレオ送信機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

上記目的を達成するため、本発明の第1の構成では、Lチャネル信号、Rチャネル信号及びパイロット信号からステレオコンポジット信号に変換する手段を備え、周波数変調手段で搬送波が前記ステレオコンポジット信号により周波数変調された変調波を送信するFMステレオ送信機において、固定の発振周波数の水晶発振器を設け、該水晶発振器から38kHzの信号を生成する手段を設け、38kHzの信号をマルチプレクサの副搬送波として用い、かつ、前記発振周波数から前記パイロット信号を生成し、一方、前記周波数変調手段では前記発振周波数を基準周波数とするPLL回路を用いて前記搬送波の周波数が制御されるようにしている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

このような構成によると、38 kHzが得られるような発振周波数の水晶発振器が設けられ、更に分周することにより、周波数が19 kHzのパイロット信号となる。このパイロット信号とLチャネル信号とRチャネル信号はステレオコンポジット信号に変換する手段により、ステレオコンポジット信号に変換される。